



T-time

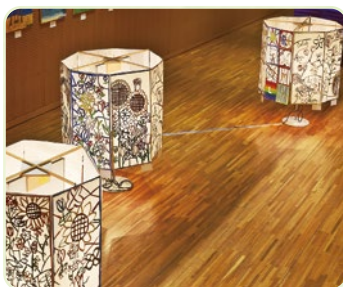
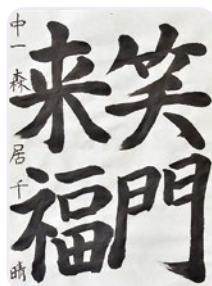
帝塚山学園広報誌

Vol. **17**

2024/Mar.

令和6年3月13日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



特集

「つながる」「ひろがる」教育連携

P 03

子どもとしっかり向き合って… 心理学部学生が幼稚園で実習
大学生と園児がクリスマス会を楽しみました
管理栄養士をめざす学生が親子にラムネの製法を伝授!
「わくわく親子クッキング」を実施
考え、調べ、自分の言葉で訴える 弁論大会を開催しました
青少年を代表し、ネット環境について真剣に議論
教員の現場を知る 学生サポーターガイダンスを行いました

大 学

P 07

学生自らが企画・立案・展示・解説
博物館実習学生による企画展示を実施しました
TOPICS
食物栄養学科学生が食育イベントで活躍しました
4年ぶりに対面形式で実施「学内合同企業説明会」を開催しました
学生がシンポジウムに登壇 心理教育の実践について報告しました
教育学部(スチューデント・コンサート)居住空間デザイン学科(卒業研究展)を開催

中学校・高等学校

P 09

年代・立場を越えて、奈良の未来を議論
地域未来プロジェクト～ならsism～に参加しました
TOPICS
キャリア甲子園準決勝に本校から6チームが進出
金融教育を実施しました
先輩から「大学でのリアルな学び」を聞く 卒業生による講演会を開催しました
「男女共生」に関するポスターセッションを実施
海外の研究者から「英語で」「リアルな」科学を知る 「サイエンス・ダイアログ」を行いました
4年ぶりにコーラスコンクールを開催

小学校

P 11

実物を見て、感じて 大和文華館を訪問しました
TOPICS
英語発表会を実施しました
全国小学生作文コンクールで優秀賞を受賞!
大谷選手からグローブが届いたよ
学習発表会を実施しました

幼稚園

P 13

幼稚園に獅子舞がやってきた
TOPICS
1年間の活動の成果を発表 チャレンジプログラム
2歳児クラスの子どもたちの作品も展示!! 制作展を開催
よいしょ、よいしょ。みんなでおもちつきをしました

- ・ 同窓会だより
- P 15
- ・ INFOMATION
- P 17

学校法人 帝塚山学園

理事長

学園長

富岡 将人

ただ、このためには各計画に示された募集定員を充足することが前提となります。やはり帝塚山学園のあるべき姿「帝塚山教育を通じて、変化する時代に残り続ける総合学園」を実現することが、最大の目標となると考えています。

これからも理事者、教職員で知恵を出し合い、一生懸命頑張っていますので、どうか皆様のお心合わせをお願いし、ご協力、ご支援のほど、よろしくお願い致します。

このような状況下では、組織として早期に具体的に明確な方針、指針が必要と考え、次々と今回も3編構成で策定するスタイルと致しました。今後は、示された諸施策に沿ってスピード感を持って実行していくことが肝要だと考えています。大学、中学校・高等学校はかなりの施策が形を整えつつあります。一方、小学校・幼稚園も令和6年度からスタートダッシュです。できるだけ早期に学園全体で経営安定化計画に示されたシステム変更を達成し、初期の目的、効果を実現すべく頑張っていると考えています。

このT-timeに所感を述べるのは昨年同時期以来となりますが、今回のテーマは「『帝塚山学園経営安定化計画』に沿って」です。それはこの経営安定化計画の大学編、中高編は既に実施段階であり、3編目の小幼編も2月に理事会、評議員会で承認可決いただき、令和6年度からは学園全ての学校で、経営安定化計画の実施を帝塚山学園第5次中期計画、事業計画に反映させながら進行していくことから、このテーマと致しました。現在、法人本部と各学校は令和6年度事業計画へ経営安定化計画の具体的内容の落とし込みを一生懸命行っているところです。

1年前も申し上げているとおり、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵略、新たには中東紛争による我が国経済、国民生活への影響が、各ご家庭の私学選好、選択の自由度を阻み、少子化が止まることなく進行し続けることで、私学経営も相当な厳しさとなっており、コロナ禍が感染症の2類から5類のインフルエンザ同等に変更されたものの、状況が好転するまでには至っていません。

「帝塚山学園経営安定化計画」に沿って

「つながる」「ひろがる」教育連携

2歳児教育から幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学そして大学院までを擁する帝塚山学園。各々校間の教育連携はますます充実してきています。今号では令和6年度に開学60周年を迎える帝塚山大学と各々校園との主な連携取組事例について紹介します。



12/21・12/25
大学
×
幼稚園

子どもとしっかり向き合って… 心理学部学生が幼稚園で実習

12月21日、心理学部の3年生ら33人が、塚本真紀幼稚園長から園児との接し方や保護者との連携支援の大切さ、保育者としての役割等についてお話を伺いました。心理学部では国家資格である公認心理師の受験資格を得られるカリキュラムを編成しており、その柱のひとつである「教育」分野について一層の理解を深めることを目的に、また大学と幼稚園の連携事業の一環として塚本幼稚園園長のお話を頂戴するステージが実現しました。

塚本園長は、幼稚園では子どもを預かり、社会に送り出すという重責を担っていることを学生の皆さんにはまず理解してほしいと述べ、幼稚園に大きな期待を寄せ、てくださったという保護者との信頼関係が第一であることを説明しました。また、塚本園長は、家庭とは全く環境が異なる集団で生活を送ることとなる幼稚園において、同じ学年でも4月生まれと3月生まれでは成長の度合いが異なること、子どもたちの個性を大切に、子どもの「好き」なものをたくさん見つけること、複数の目で子どもを見守ることなど、子どもと接するうえでの注意点について、具体的な事例を示しながら話していま



熱心に質問をする学生



現場で先生の指導の様子を観察する学生たち

た。学生からは「規律性と自立心とはどちらを優先すればいいのか」「共感力を高めるポイントは何かなど意欲的に質問がなされると、塚本園長は「ひとつつ丁寧に対応していました。これに続き、年末年始、「心理実習Ⅰ」の科目を受講する学生はグループごとに分かれ、幼稚園で子どもの保育を体験しました。25日には4人の学生が幼稚園を訪ね、冬空の下、砂場でトンネルを掘ったり、園庭でおいかけごっこをしたりと幼稚園の「現場」を体験しました。最初は慣れない様子だった4人も園児に手を引かれて歩いたり、親しげにお話したりと子どもとの距離感をうまくつかんでいく様子が見られました。実習を終えた学生は「現場の先生方は視野を広くもっており、常に子どものことを見ていた。思ったより大変だった」「先生方はさまざまな工夫を凝らして子どもたちとコミュニケーションをとっていた」と口々に感想を述べていました。

大学心理学部と幼稚園とは「キンダーカウンセリング事業」などさまざまな連携事業を実施しており、今後もさらなる展開が期待されます。

担当教員からのコメント



心理学部
式部 陽子 准教授

国家資格である公認心理師をめざす学生にとって、今回の帝塚山幼稚園での心理実習は、幼児期の子どものたちと実際に触れ合うことのできる大変貴重な機会となりました。心理学部と帝塚山幼稚園は、令和4年度に始まったキンダーカウンセリング事業で、実質的な連携がスタートしました。本事業は幼稚園における子育て支援のニーズを踏まえ、帝塚山幼稚園と帝塚山大学心理学部・大学院心理学研究科との連携協力により、心理相談援助機能の充実を図るとともに、公認心理師、臨床心理士を目指す学生等の実習等の場を確保することを目的としたもので、園児や保護者への支援、園教員のスキルアップの支援、また、学部生の実習等の支援など、さまざまな取組を行っています。園児と保護者のみなさま、園と大学の教員学生が繋がり、互いに学び合い育て合う機会を、これからも一緒に作り上げていきたいと思います。

12/15
大学
×
幼稚園

大学生と園児が クリスマス会を楽しみました

いつものリズム室が暗くなり、子どもたちはそと静かに席に座りました。目の前に用意されたりうそくに1本ずつ炎が灯されると荘厳な雰囲気。先生の合図でふつとやさしく息を吹き掛けて炎を消すといよいよ楽しいパーティーの開幕です。

担任の先生がサンタクロースやトナカイに扮して登場すると子どもたちは大喜び。一緒に時間を過ごした2歳児クラスの子どもたちも先生が演じる劇に引き込まれていました。この後、みんなの前には大学教育学部の学生ボランティア「ティアサーク」の学生たちが「現れました。この日のために学生たちが練習した楽しい歌やダンスだけでなく、おなじみのクリスマスソングがハンドベルで演奏されると、子どもたちは楽しそうに体をリズムでリズムを



ハンドベルの演奏をする教育学部の学生たち

とつていました。この後、学生たちは園児一人ひとりにプレゼントを手渡していました。耳を澄ますとどこからか鈴の音が響いてきます。「メリークリスマスー」大きな袋を肩から提げたサンタクロースが登場しました。子どもたちはみなサンタさんに興味津々。質問の機会が与えられると「サンタさんはいつも子どもたちにプレゼントをくれるけれど、サンタさんはほしいものはないのですか」「トナカイのこはんはなんですかなど思い思いに「ミニミニ」ゲームをとっていました。最後にサンタさんから一人ひとりにプレゼントが手渡されると子どもたちは皆、満面の笑みを見せていました。



サンタさんからのプレゼントを受け取る園児



サンタさんに質問をする園児

12/2
大学
×
幼稚園

管理栄養士をめざす学生が親子にラムネの製法を伝授！ 「わくわく親子クッキング」を実施



ラムネのつくり方を説明する小野さん(左)と中村さん

12組の親子が集まったのは普段大学現代生活学部食物栄養学科の学生が学んでいる栄養教育実習室。部屋には栄養指導等の場面で活用される実物大の食品模型が並び、子どもたちはもう興味津々の様子。机の上には今日の「フッキング」の材料や道具がきちんと用意されていました。「それでは今からラムネづくりを始めます」「新宅賀洋同学科教授の指導のもと、同学科の小野瑞季さんと中村祐郁さん（ともに4年生）から丁寧な説明がなされました。」「きまつた分量でつくり、固まらないようにラムネが固まらなくなったり、苦くなったりします。学生のお話をしっかり聞いて、子どもたちは家族のサポートのもと、加え



優しくアドバイスをしています

る水の量を注意深く測っていました。粉砂糖、コーンスターチ、クエン酸、重曹などの材料を配合して丁寧に混ぜていくと、やがて指先の力で固まるほどになってきました。ある親子は好みでいちご味にするなど工夫を凝らし、できあがったラムネの素をシリコン製の型に流していききました。ラムネをしっかりと固めるにはある程度の時間が必要ですが、できあがったばかりでも十分に楽しめるので、子どもたちは自分で作ったラムネを早速はおばり、しゅわつとした食感を楽しんでいました。できたラムネはまだしっかりと固まっていて、「生ラムネを食べているみたい」と感想を述べる保護者もいらつしやいました。また、日頃店先で買い求めているラムネを身近な食材で作ることができると知り、家でも挑戦してみようかと話している親子もいました。今回指導役を担った小野さんと中村さんは「子どもたちが楽しんでくれて何度も試作した甲斐があつた。保護者に配付したレシピはクリスマスソングをテーマにイラストにこだわって作った」「教室をうまく進められるには指先にけつこう力があるが子どもたちははすくく頑張っていた」と感想を述べていました。



完成したラムネを味わい満面の笑みを見せる子どもたち

幼稚園長からのコメント



塚本 真紀
幼稚園長

教育学部の学生は、幼稚園での実習をはじめ、今回のような園行事のクリスマス会の出し物や毎日の預かり保育のボランティアなどに参画してもらい、さまざまな場面で園児と直接触れあひながら幼稚園現場を体験し、実際の子どもたちの姿を学んでもらっています。社会との接点を持ち始めたばかりの園児にとつても、そんな大学生との交流は楽しく、とても貴重な経験です。帝塚山大学とは、食物栄養学科そして心理学部とも連携が密になつていきます。幼稚園の取組をより理解してもらい、互いに学び合える環境を今後も築いていき、その成果を外へも発信していきたいと思つています。

担当教員からのコメント



現代生活学部食物栄養学科
新宅 賀洋 教授

栄養教諭をめざしている学生にとつて、帝塚山幼稚園は貴重な機会となつていきます。子どもの様子を親で対応することは授業で学びますが、実際に経験することで、持っている知識をさらに深く理解し実践することができまふ。食物栄養学科では、今回の「親子クッキング」以外に、教室に出向いての「食育講座」、2023年度は「朝ごはん」についてを帝塚山小学校でも各学年に応じた内容で行いました。学生にとつても成長の場となつていきます。

担当教員からのコメント



中学校高等学校
西川 和宏 教諭

スマートフォン の普及や G I G A スクール構想により、インターネットは高校生の生活に欠かせないものとなっています。一方で、日常的にインターネットを使用することは、犯罪被害に遭うリスクや依存状態に陥る可能性も伴います。これまで本校では、専門分野の大学教員と連携し、高校生が課題解決の方法を提案する取り組みを行ってきました。本事業以外にも、高校生 I C T カンファレンスや奈良県 S M ホ学生フォーラムでのプレゼンテーションを行っています。これらの取り組みを通じて、生徒たちは分析力、課題解決能力、そして表現力を身につけています。

担当教員からのコメント



小学校
辰巳 喜之 教諭

教職課程の学生たちは大切な教員の「卵」です。今回、学生サポーターとして小学校に入ってもらったことになりますが、帝塚山学園の教職員として全力で応援したいと思います。私たち教員とともに汗を流し、考え、子どもに寄り添っていければ嬉しいですね。同時にこの場が教員という夢を大きく膨らませる時間であってほしいと思います。

これまで大学とは小学校教員をめざす教育学部との連携が主でしたが、今回のようにさらに別の学部で学ぶ学生たちともつながりをもてました。今回の取組を通して2歳児教育から大学院までを擁する帝塚山学園の連携が一層強まることを期待しています。

2月9日、弁論大会が学園講堂にて開催されました。出した生徒代表はスライドを映写したスクリーンを参照しながら自らの意見を堂々と主張していました。

この日、午前に行われたのは高校1年の部。時代の変化に対応するため、中学時から内容を大きく発展させ、プレゼンテーション能力を重視したスタイルが導入されています。また、外部からの視点も重要であるとし、昨年から審員を校外から招き、今回は吉田裕株式会社アイエスエー、上田康世株式会社ANYQOTT代表取締役、そして日置慎治帝塚山大学経済経営学部長・教授の3名が審にあたりました。上田さんは帝塚山中高、帝塚山大学の卒業生でもあり、終始後輩を温かく見守っていました。

今回登壇した生徒は厳しい選考過程を突破した6名。李休暇の課題としてまとめた弁論文に基づき、2学期に業ごとに選考会を開催し、10名を選考。その後、各教科ハランスを踏まえて構成された教員陣により最終的に2期末の校内予選で6名に絞りられました。

この日、発表者に与えられた持ち時間は約7分。格差はまたや外国労働者、子ども食堂など社会問題に焦点を当てたものや日ごろの生活のなかで生じた事象を踏まえたものなどさまざまな領域に及ぶ論題が順次展開されました。どの生徒も自分で考え、調べ、まとめた内容を自信を持って堂々と主張し、中には発表原稿をすべて暗記し身振り手振りを巧みにまじえて発表する生徒もいました。

6名の発表後、審査員は別室に移動。着眼点や発想、独断性といった話題、プレゼンテーション力や声の抑揚、パオーマンスといった「表現」、内容とのつながりや見やさを観点とした資料・論議の4つの基準に基づき審が進みました。この弁論中2つがたいがうしい表面内容であったため、苦渋

の選択を迫られた審査員は呻吟していました。

厳正な審査の結果、河村郁さん（1年F組）の弁論「国会議員資格制度が1位を獲得しました上部写真右下。河村さんは、国会議員は国民の期待に十分にこたえられていないと非難される場面が多いが、他業種例えば医療分野において、医師は当然ながら、それを支える看護師や薬剤師などかわる者の多くが資格を有している」と主張。かたや国会議員に目を転じると、秘書には政策担当秘書資格制度があるものの国会議員は果たしてどうか、国会議員にこそ資格制度を導入するべきとの論をさまざまなデータにふれながらまとめていきました。若者の政治への関心の低さをテーマとして掲げたこと、論立てや表現力に加え、資料の見やすさについても高い評価を得ていました。2位には中川雄貴さん（1年B組）の「優しさ」と「力」は紙重が3位には小林紗綾さん（1年G組）の格差是正の考察が選ばれました。

審査員からの講評では、統計資料を正しく読み取る力、観衆を引き込む話し方を備えた生徒がたたえられ、この弁論も論理的にかつ表現力をもつて主張されており、選考はかなり難航した旨が述べられました。

帝塚山大学の教員や帝塚山中高大学の卒業生が関与した本大会。学園内の教育連携もさらに強固なものとなりました。

2位の河村郁さん

3位の河村郁さん

審査の様子（左から日置慎治帝塚山大学経済経営学部長・教授、上田康世株式会社ANYQOTT代表取締役、岡田愛教諭、吉田裕株式会社アイエスエー取締役）

3位の小林紗綾さん

2/17 食物栄養学科学生が
食育イベントで活躍しました

2月17日、現代生活学部食物栄養学科の学生が近鉄百貨店奈良店で開催された「奈良市食育ネットフェア」に参加し、地域の子どもたちに食の大切さを伝えました。

今回の活動は、「奈良市食育ネット」から加盟団体である「帝塚山大学ヘルスチーム奈良」(管理栄養士を目指す学生による同世代や子どもたちに向けた活動や地産地消の推進活動を中心に行う食育サークル)に対して出展依頼がなされたことを受け、実現したものです。岩橋明子同学科教授の指導のもと、本学の1・2年生のみでチームを結成し、地域の子どもたちに対応しました。

この日午後には、買い物のため来店した親子連れがブースを訪ねていました。にんじんやなす、玉ねぎなどのイラストが印刷された野菜のぬりえを楽しむのは4月から小学校に入学予定の子どもたち。学生は「野菜もきちんと食べようね」と優しく話しかけていました。また、日ごろ気軽に飲んでいるジュースに関するクイズも実施。清涼飲料水には多量の糖分が含まれていることを同量の砂糖が入ったペットボトルを見せながら、視覚的にわかりやすく説明していました。学生は、清涼飲料水は適度な量を摂取すること、普段からバランスの良い食生活を送ることなどをオリジナルの紙芝居を使って理解を促していました。

日頃の学びを地域に還元するこの活動に1・2年生のうちからかかわった5人。管理栄養士をめざす学生たちにとって栄養指導のスキルを磨く機会にもなり、大きな自信と達成感を得ていました。

2月7～22日、2025年卒業予定者を対象とした「学内合同企業説明会」が東生駒キャンパスにて開催されました。新型コロナウイルス感染症を受け、オンラインで行っていましたが、今回4年ぶりに対面形式での開催となり、期間中計7日間にわたり、約120社の企業・団体のみなさまに参加いただきました。

リクルートスーツに身を包んだ学生は緊張した面持ちで会場入り。あらかじめチェックしていた興味・関心のある企業ブースを訪ねると、説明内容について熱心にメモをとる様子もみられました。

文学部では、開催に先立ち、キックオフイベントを実施。参加した3年生は、学部教員やキャリアセンター職員から励ましのメッセージを送られ、これから本格化する就職活動に気を引き締めていました。

学園前キャンパスでは恒例の学内合同業界研究セミナーを開催。食品や医療分野など企業ごとに教室に分かれ、採用担当者から会社の概要や事業などについて丁寧な説明がありました。

学園前キャンパスでは恒例の学内合同業界研究セミナーを開催。食品や医療分野など企業ごとに教室に分かれ、採用担当者から会社の概要や事業などについて丁寧な説明がありました。

2/12 学生がシンポジウムに登壇
心理教育の実践について報告しました

2月12日、学園前キャンパスにおいて、シンポジウム「心理学を学ぶ大学生による奈良県内での心理教育の実践」(主催: 帝塚山大学 共催: 奈良県教育委員会)が開催され、心理学部生が100名近い学外の専門家や教育関係者、一般の方々、大学生・大学院生を対象に実践報告を行いました。

この報告は、いじめやうつ、不登校など子どもが抱える課題が複雑化している現状に対し、同学部が令和4年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」(奈良県主催)の公開コンペで最優秀賞を受賞した政策提案をもとに立ち上げられた県の「心理教育を活用した予防的支援事業」の一環として実施されたもの。いじめや不登校の未然防止を目的として心理学部の学生が奈良県内5校の小中学校で心理教育を実践しています。その取組結果について、同学部の福西由未さん、野口香愛さん、山中愛美さん(いずれも3年)が発表を行いました。

3人は、各校で抱える課題がさまざまであるため、それぞれのニーズに対応した個別の心理教育プログラムの策定が求められたと報告。外部の専門家ははじめ、同学部の中地展生教授や山口祐子教授らの指導のもと、プログラムの内容や教育手法について何度もすり合わせやリハーサルを行ったこと、ときには緊迫した教育現場に身を置く小学校の先生から厳しい言葉をいただいたことなど、試行錯誤を重ねて取り組んできた過程も報告されました。

シンポジストの心理教育の専門家や教育関係者からは、「子どもたちが教育内容を身につけるため、“キーワード”を教室に掲示するとの案は非常に有効」「取組の評価にあたってはアンケートの設問項目をより工夫するべき」「心理教育は今後絶対に必要なものとなるので頑張ってください」といったコメントもいただき、大きな反響がありました。

1/12 教育学部(スチューデント・コンサート)
2/9-11 居住空間デザイン学科(卒業研究展)を開催

教育学部では1月12日、恒例の「スチューデント・コンサート」を学園前ホールで開催しました。ピアノ独奏・連弾、独唱、ヴァイオリン、フルートなどに学生も聴衆も目を輝かせ、聴き入っていました。小学校、幼稚園の各

教諭、保育士を目指す学部らしく、器楽合奏やミュージックベルなど多彩な演目が披露されました。

2月9～11日には、現代生活学部居住空間デザイン学科が第17回卒業研究展を学園前キャンパス16号館9階で開催しました。会場のレイアウトや設置などすべて学生により企画・実施される卒業研究展です。場内には4年生全員の卒業設計・卒業制作・卒業論文が一堂に展示されました。会期初日には富岡将人理事長・学園長も来場し、学生自らが作品の見どころや苦労した点など説明をしていました。

今春卒業する4年生は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が初めて発出された2020年4月に入学したためさまざまな制約を受けた中で学生生活を送ってきました。オンライン授業など創意工夫を重ねて学びを深め、社会人として必要な能力や資質を身につけ、このたび卒業を迎えました。

富岡将人理事長・学園長に説明する大門楓花さん。制作した作品は日本建築学会全国大学・高専卒業設計展示会に出展するほか、専門誌「月刊近代建築」2024年6月号別冊「卒業制作」への掲載が予定されています。

※今回展示された作品のうち3点について、本誌表紙に写真を掲載しています。

学生自らが企画・立案・展示・解説
博物館実習学生による企画展示を実施しました

テーマから学生が企画・立案する本企画展示。今年は昔の看板に焦点を当て、入念に準備が進められ、12月26日には文学部の学生4人が熱心に作業にあたっていました。博物館の展示コーナーは今回出展する所蔵品ごとにスペースが割り当てられ、学生それぞれが担当する「お宝をどのように演出するか四苦八苦していました。学生の指導にあたる同学部西連寺匠講師は「まずは所蔵品を安全に設置すること。倒れてこないかと不安にさせてはいけません。それから角度、配置、照明の当たり具合など、来館者を想定した見やすさを考える必要がある」とアドバイスすると、学生たちはより美しく見せられるようにと何度も何度も位置を確認していました(写真1)。文学部では必要な単位を修めると学芸員の資格を得ることができ、必要な科目のひとつに博物館の現場の実際にふれる「博物館実習」がありますが、これを学内で行うことができるのは附属博物館を擁する本学ならではです。

学生たちにはただ所蔵品を陳列するだけでなく、解説パネルの制作やパネルにどのような内容を盛り込むのかをまとめる作業も求められます。今回の企画展示では、博物館の所蔵品を陳列するだけでなく、解説パネルの制作やパネルにどのような内容を盛り込むのかをまとめる作業も求められます。今回の企画展示では、博物館の所蔵品を陳列するだけでなく、解説パネルの制作やパネルにどのような内容を盛り込むのかをまとめる作業も求められます。

チラシも学生が制作

1/10-
2/10

大学附属博物館では、1月10日から2月10日まで企画展示「看板—これどんな店?—」が開催されました。学芸員の資格取得をめざす文学部の学生が学びの集大成として携わる本企画展示は毎年この時期に行われており、今回で16回目を迎えました。



チラシも学生が制作

2/11

キャリア甲子園準決勝に 本校から6チームが進出

「マイナビキャリア甲子園 2023」(主催:株式会社マイナビ)に多くの高校1・2年の生徒が挑みました。



「マイナビキャリア甲子園」は高校生がチームを組んで協賛企業からのテーマに挑戦するビジネスアイデアコンテストで、今年度は全国から10,125名、2,736チームが参加。書類審査で実現可能性や社会的影響力、新規創造性といった審査項目をパスすると、いよいよプレゼン動画の審査に進みます。この動画審査に進んだのは240チーム。年明けにこの結果が発表され、わずか72チームが準決勝に進出しました。本校からはなんと6チーム17名が準決勝に進出。1校から6つのチームが準決勝に進出するのは最多タイという快挙を成し遂げました。

2月11日には、東京都内で開催された準決勝に6チームの生徒が出場。どのチームもこの日のためにプレゼン内容をブラッシュアップし本番に挑みました。審査の結果、3月に行われる決勝進出にはあと一歩届きませんでしたが、参加した生徒たちは全国の高校生との切磋琢磨を重ね、情報収集力やテーマ分析力といったさまざまな力を身につけることができました。

11/28

金融教育を実施しました



家計管理の重要性について熱心に学ぶ生徒たち

高校家庭科の授業では、「家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること」、「生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること」をねらいとした金融教育を行うこととされています。

昨年度に続き本年度も、野村ホールディングス株式会社の協力のもと2日間にわたり授業を行いました。1年B組(男子クラス)と1年H組(女子クラス)が受講した授業では同社ファイナンシャル・ウェルビーイング室シニア・アソシエイト佐藤由紀様をお招きし、教育や住宅、老後といったライフイベントを意識したライフプランニングを踏まえた家計管理を行う大切さやさまざまな金融商品のメリット・デメリットについて丁寧に説明をいただきました。定期預金の利率の低さに加え、物価高で資産の価値が目減りする今、投資に関心が高まっていることに触れ、金融商品のひとつである投資信託については、「長期」「分散」「積立」を基本とした運用が望ましいこと、また、2024年から始まった「新NISA」についても紹介されました。さらには、投資には必ずリスクが伴うこと、「ローリスク・ハイリターン」をうたった誘いが見受けられるが、このような商品はありえないので注意が必要と説明する場面もあり、消費者教育の役割も果たしていました。

授業を受けた生徒は、「大人になってからでなく高校生のうちから今回の話が聞けてよかった」「若いころから資産形成を始める重要性に気づけた」など感想を述べていました。

2/21

先輩から「大学でのリアルな学び」を聞く 卒業生による講演会を開催しました



2月21日、医、工、農、薬、看護、建築、文、心理、経済、法の10学科11名の卒業生が母校である帝塚山高校に集結。後輩である2年生を対象に専攻分野の研究テーマや大学での学びについてレクチャーいただく講演会を開催しました。

卒業生が通う大学は滋賀医科大学や京都大、大阪大、神戸大など多くの生徒が目標とする関西各地の国公立大学。生徒たちはあこがれの先輩からの話に熱心に耳を傾けていました。医学生は1日の授業時間割や6年間のカリキュラム、診療科を選択した理由など高校生に寄り添った丁寧な説明がなされていました。高校時代のエピソードを交えたり、充実したキャンパスライフに触れたり、どの先輩からも現役学生ならではのリアルな声が届けられ、生徒たちは今回の交流に満足した様子でした。

2/14

「男女共生」に関するポスターセッションを実施

2月14日、高校1年生が人権学習の一環として取り組んだ「男女共生」について、体育館でポスターセッションを行いました。生徒たちはこの日のためにポスターを制作。参考文献や使用画像の引用元などもしっかりチェックし、伝えたい情報を適切に理解してもらえよう工夫していました。



この日は男子クラスの生徒が行うグループ発表を女子生徒が聞く番。壁一面にはポスターが張り出され、訪れた聞き手に対し、調べた内容や自分の意見を述べていました。取り組んだテーマも、教育格差や政治、育休、雇用といったものから校則やレディーファーストの是非といった身近なものまで幅広く取り上げられていました。机に座って学ぶだけでなく、調べたことを考え、まとめ、伝え、意見を交換する深い学びのプロセスがみられました。

2/14

海外の研究者から「英語で」「リアルな」科学を知る 「サイエンス・ダイアログ」を行いました



英語でなされた専門分野に関する講義を聴く生徒たち

2月14日、高校2年女子英数コースの生徒を対象に「サイエンス・ダイアログ」を実施しました。

「サイエンス・ダイアログ」は、日本学術振興会のフェローシップ制度により、世界各国より日本の大学・研究機関等へ研究のために滞在している優秀な若手外国人研究者を講師として派遣してもらい、自身の研究や出身国に関する講義を英語で行うプログラムです。

今回は「情報学」「工学系科学」「化学」の3分野の研究者が来校。「工学系科学」の教室では、生体内で応用可能なゲル状物質に関する研究について英語で説明がなされました。講義後半には実験の時間も設けられ、白衣を身につけた生徒が登場。ある溶液に試薬を加えるとみるみるうちに透明のゲル状物質に変化。その反応に多くの生徒が関心を寄せていました。

他の教室でも、異なる言語を母国語とする研究者がよどみない英語で専門分野について語る様子に生徒たちは尊敬のまなざしを送っていました。また、研究内容だけでなく、当該分野に興味・関心をもった経緯や学生時代のエピソードがユーモアをまじえて英語で披露されると、教室には笑いが起こり、温かい雰囲気をつくっていました。



生徒が実験に参加。研究のリアルを知りました

2/19

4年ぶりにコーラスコンクールを開催

本校の伝統行事であるコーラスコンクールがコロナ禍以降4年ぶりに開催されました。今回合唱を披露したのは中学1年生。伸びやかな歌声が講堂中に響き渡っていました。プログラムの最後には保護者の皆様で編成された「茜コーラス」が登場。見事な歌声でコンクールをしめくくりました。審査の結果、金賞に選ばれたのは「ともしびを高くかかげて」を歌った1年7組。銀賞は1年9組、銅賞は1年2組でした。優秀伴奏者賞には井田侑里さん(1年7組)が選ばれました。



金賞に輝いた1年7組

2/10

年代・立場を越えて、奈良の未来を議論 地域未来プロジェクト～ならism～に参加しました



1



2



3



4

2月10日、学園前ホール奈良市及び近隣会場で開催された「第5回地域未来プロジェクト～ならism～」(Time to Shine)産官学の融合「三全催 奈良商工会議所青年部」(以下、YEG)に、高校1年生8名が参加しました。

「産官学の融合」との副題のとおり、「産」(青年経済人)、「官」(公務員)、「学」(生徒)が年代や立場といった垣根を越えてひとつにまとまり、奈良に住むこと、奈良で働くこと、奈良をさらによくすることなど、奈良の未来を元気にするために何が必要であるかを徹底的に議論しました。生徒たちはあらかじめ示された4つのフュージョンの中から関心のあるものをそれぞれ選択し、議論に臨みました。

フュージョンA(環境)では、「ガチな10代しやべり場Z」身の回りの環境に関して、ギロンで遊ぶ」のテーマを受け、学校のルールや設備など生活環境に関して日頃感じている問題点について、フアンリターター役の大人が見守る中、10代の各校生徒が意見を述べ合いました。本校生徒も積極的に発言すると同時に、他校生徒の主張に傾聴の姿勢を見せ、議論の円滑な進行に貢献していました。

フュージョンB(社会)では、「空き家とフュージョン」リベで見いだす活用方法がテーマ。十分な手入れがなされないために倒壊や火災、景観の悪化など近隣住民に深刻な影響を及ぼす空き家が近年急増。この現状の解決に向けて、産官学混合の3つのグループに分かれて議論を行い、具体的な活用方法をまとめました。本校生徒は根拠にもついたアイデアを披露し、会ったばかりの他校生徒や社会人とうまくコミュニケーションをとりながら提案をまとめていました。

フュージョンC(経済)では、「一人ひとりが社長になって会社を成長させる本格的な研修用のビジネスゲーム「ビジネス」を使って、実践的な企業経営を知ること」をめざしました。本校生徒はゲームのルールを理解し、景気動向など設定されたさまざまな外部環境をふまえて経営者として資金の投資



コミュニケーションをうまくとってビジネスゲームを楽しむ生徒



異なる年代の人と議論をする生徒



身振り手振りを交え熱心に意見を述べる生徒

先をつまぐ工夫しながらゲームを進めていました。ゲームを通じ、実際の経営者であるYEGの方々から現場ならではの成功例・失敗例が語られる場面もあり、熱く盛り上がりつつありました。(写真③)

フュージョンD(教育)では、今シーズンアメリカ大リーグ・ジャースに移籍した大谷翔平選手が夢の実現のために目標を洗い出したと言われるマンガラチャートを使って、これからの奈良の教育に求められることをYEGや奈良市役所の方々を交え、ワークショップ形式で検討しました。本校生徒が述べた意見は着眼点のよさが評価され、マンガラチャートに盛り込まれていました。(写真④)

閉会式では、生徒がステージに上がり、各フュージョンでの成果を発表しました。空き家問題に挑戦した(社会)では、駄菓子屋やミニシアター、工芸教室の開設を提案。根拠や理由を交えながら説得力をもって訴えていました。(写真⑤)

本校生徒たちは、他校生徒だけでなく、世代や立場が異なるYEGや奈良市役所職員のみならず積極的に自分たちの意見や考えを積極的に発信するとともに他者の発言に丁寧に耳を傾け、組織のなかでの役割をめぐりに果たしていました。これからの予測困難な時代においては、さまざまな人々と協力しなければ課題の解決は困難とも言われ、社会の一員として自覚と責任をもった行動をとる必要性を認識していました。

参加した生徒は「自宅近辺に点在する空き家が気になったところ、先生からの催しの案内を受けて参加した。社会問題に取り組む重要性を知った」「さまざまな人の意見を聴き、多様な考え方があることを知った」など感想を述べていました。

参加者の募集や引率にあたった別所誠教諭は「普段ディスプレイをできない人たちが知識の共有ができる機会を得ることは貴重な経験です。今回は学外の活動にも視野を向けた興味関心の高い生徒たちが参加してくれました。それぞれのフュージョンで真剣に取り組んでいる姿が印象的でした」とコメントしていました。

今回は奈良商工会議所の会員である本校卒業生からの紹介で催しへの参加が実現しました。会場では別の卒業生がYEGのメンバーとして運営にあたっておられ、地元奈良の経済人として活躍されている姿がみられました。

※本記事の掲載写真について、本催しと関係により、本校生徒以外の参加者についてはエディット処理しています。



議論を終え、達成感をかみしめる生徒たち

12/8 英語発表会を実施しました

12月8日、体育館で英語発表会が行われ、懸命に練習した成果を保護者の前で披露しました。1・2年生の英語劇のセリフは全てネイティブ講師が執筆。2年生はウクライナの民話をもとにした英語劇「SANTA'S MITTEN」を演じました。「My mitten is so toasty. My mitten is so warm」とリズムカルなフレーズが続くと、聴衆の保護者のみなさんも体全体でリズムをとっていました。

最後は担任の先生も登場（2年生組）



4年生のテーマは「OUR TALENTS」。music, soccer, magic, danceなど6つのグループに分かれ、自分たちの得意な事柄を英語で紹介することにチャレンジしました。各自の特技を洗い出し、児童自らがタブレットを活用して発表に向けた原稿を作成するなど、すべて子どもたちの意向で決めていくプロセスが大事。4年生組の「OUR TALENTS」にされています。5年生は低学年に向けた「英語絵本の読み聞かせ」という新たな企画に挑戦しました。

3・6年生は一人ひとりが自分でセリフを考え、個性を生かした発表を行いました。6年生のテーマは「OUR FUTURE DREAMS」。「I want to be a doctor! Because I want to help a lot of people. If I could become a doctor, I would like to build a big hospital.」「I want to be an astronaut to fly to Mars from a lunar base and contribute to the development of the human race!」など将来の目標をしっかりと英文にまとめ、一人ずつ堂々と発表していました。



司会進行は国際交流部の児童が務めました。それ乗り越えた見事な発表に聴衆から大きな拍手が起こっていました。

小学校では、全学年とも週に2時間、英語の授業を行っています。発表会の前には休み時間も自主的に練習に取り組む姿が見られました。インフルエンザのために閉鎖となった学級や学年もありましたが、

12/23 全国小学生作文コンクールで優秀賞を受賞！

第32回全国小学生作文コンクール「わたしたちのまちのおまわりさん」（読売新聞社など主催）で1年月組中村里愛さんが見事、優秀賞（低学年の部）を受賞しました。

中村さんの作文は、外出時、兄が迷子になってしまい、家族みんなが不安な思いでいたとき、警察官らの協力を得て無事見つかったというもの。家族を笑顔にしてくれた警察官を「スーパーヒーロー」とたたえた作文は、小学校に通う前、5歳のときの鮮明な記憶から仕上げられたものです。

受賞の知らせを聞いた中村さんは「あまりのうれしさに飛び上がるほどだった」とのこと。「お母さんと担任の小林先生、そしてクラスのみんなが喜んでくれた」と嬉しそうに話していました。作文では「困っている人がいれば自分も助けてあげたい」とありましたが、実際に高齢のおばあさんを電車で見かけたときは席を譲るなどしているそうです。

算数と体育が大好きな中村さん。「将来は大好きな帝塚山小学校の先生か、ディズニーランドのダンサーになりたい」と目をきらきらさせて話していました。



1/9 大谷選手からグローブが届いたよ

アメリカ大リーグドジャースに所属することとなった大谷翔平選手から帝塚山小学校にグローブが贈られました。

大谷選手は、子どもたちに野球の楽しさを広めるために国内の全小学校に3つずつ総計約6万個のグローブを寄贈する計画を発表しています。帝塚山小学校にもクリスマスを迎えた年末にグローブが届き、年明けの始業式で野村至弘校長から全児童に対してお披露目されました。

「このグローブが次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルになることを望んでいます...野球しようぜ!」野村校長が大谷選手からの手紙を代読すると大歓声があがりました。5年生と6年生の代表児童3名が登壇、一人ずつサイン入りのグローブを校長から受け取りました。式後、子どもたちはプレゼントをひと目見ようと駆け寄り、グローブをとり囲む何重もの人の輪ができました。

また、球があるものとの想定で、バッター役の児童に「エア投球」した打球を「エアキャッチ」する子どもたちもいて興奮冷めやらぬ様子でした。

右利き用2つと左利き用1つのグローブは1週間かけて全学級にまわし、間近に見たり触ったりしました。その後休み時間に貸出票に名前を書いて有効に活用しています。



代表児童3名がグローブを受け取りました



グローブに集まる児童たち



グローブは幼稚園でも披露されました

2/8 学習発表会を実施しました

2月8日、小学校体育館で学習発表会が行われました。新型コロナウイルスに伴う行動制限もなく、久しぶりに従来の形式での実施となりました。

学習発表会は、クラスの雰囲気、子どもたちの好みや特性、発達段階や学習内容などさまざまな要素を踏まえ、子どもたちの意見を採り入れながら、担任の手によりオリジナルの台本が作られることが特徴です。演技についても、ただ台本を見て読むのではなく、身振り手振りを付けるなど試行錯誤を重ねて取り組みました。また、手作りの大きな背景画やさまざまな大道具、小道具、音響や照明も劇を演出する大きな要素となっています。

午前の部には1～3年生の低学年が登場、練習の成果を保護者に披露しました。2年月組は「あれもこれも欲しい!」を上演（写真）。ゲームやお菓子などさまざまな誘惑に負けないで自立していく過程がクラスみんなで演じられると観客席から大きな拍手が起こりました。

長い年月をかけて伝統的に行われている学習発表会。子どもたちの創意工夫を重ねたさまざまな学習活動の成果が「クラスの総まとめ」として結実し、新たな歴史を刻みました。



1年生組「ひらがなのくにの「あいいうえおマーチ」」



1年月組「輝け☆しんせつせんたい1ネンジャー!」

1/25

実物を見て、感じて
大和文華館を訪問しました

大和文華館に向かう児童



作品の細部まで目を凝らして見ている

作品を見て積極的に意見交換する児童

1月25日、4年生組の児童が学校近隣にある美術館「大和文華館」を訪ねました。小学校では、4・5・6年生は美術科（※の校外学習）として、毎年同館での作品鑑賞を行う教育課程を編成しており、児童は今回のような作品と出会うのが期待を寄せていました。

この日は、特別企画展「やまと絵のころ」の会期中。普段はなかなか目にするのができない名品を鑑賞できる貴重な機会となりました。講堂に集まった児童に対し、学芸員から「やまと絵」とは、平安時代に日本の風物を描いたことから始まりました」と丁寧な解説がありました。このあと、美術担当の清水正志教頭から美術館で作品を鑑賞する際のマナー等について説明があり、一同は展示エリアに静かに向かいました。

児童は作品の前に集合。目の前にある六曲一双の屏風は江戸時代後期に描かれた「春秋鷹狩狩野図屏風（しゅんじゅうたかがりきのこがりずびょうぶ）」岡田為恭筆です。右隻には桜の花が咲く中、鷹狩りを楽しむ春の季節が、左隻には紅葉の山できのこ狩りをする様子が見事に描かれています。児童は絵を見やすいようお互い位置を譲り合いながら、屏風の細部まで注意深く目を凝らしていました。学芸員の方からの「この絵を見て気づくことはありますか」との質問に対して、「弓矢が

描かれ、戦いのよう」「紅葉が描かれている」「二つの屏風は海を描いたところがつながっている」などさまざまな点に着目し、意見を交わしていました。

本展では国宝「寝覚物語絵巻」など35作品が展示。児童はバイナダーを手に熱心にメモをとりながら鑑賞していました。児童は「作品は和紙に描かれているのか」「なぜ作品に黒い色が入っていたり、一部欠けたりしているのか」など学芸員に質問。それに対して「いい着眼点。昔は和紙のほか絹にも描かれていた。また、作品の中には実物が現存せず模写しているものもある。火災を受けた作品は、焼けた際の炭の線まで再現され、焼失した部分は欠けた形になっている」と説明しました。児童は聞いたことを友達に伝え、得た知識を共有していました。

鑑賞を終え、清水教頭から「お気に入りの作品は見つかりましたか。作品を見て感じて、込められた意味や物語を読み取ってほしい」との言葉がありました。この校外学習は、国宝や重要文化財を所蔵する大和文華館が徒歩圏内に立地する本校ならではの取組。実物をじかに目にする体験を通し、心豊かな子どもを育成することをめざしています。

※本校では、児童の自由な感性や発想を大切にしのびのびとした創造的な造形活動を行えるように、「図画工作ではなく美術と称しています」。

ねん かん かつ どう せい か はっ びょう
1年間の活動の成果を発表 チャレンジプログラム

2月6日、専門講師による指導のもと園児たちが1年間励んできたチャレンジプログラムが最終日を迎え、取組の成果を保護者の前で披露しました。

茶道クラブでは、保護者の方をお客様としておもてなしました。「どうぞ」と相手を思いやって、お茶菓子を慎重にお運びし、お茶点での所作にも洗練されたふるまいがみられました。茶筌のさばきが見事に上達している様子に保護者の方は熱いまなざしを注いでいました。この1年間、部屋には季節にちなんだ花が生けられるなど、和の心にふれてきた園児たち。先生は、小学校にあがる年長さんに「春から1年生ですね。頑張ってください」と優しく言葉をかけていました。



合奏クラブでは、みんなで声をそろえて合唱した後、先生のピアノの伴奏にあわせて木琴を演奏。見事なハーモニーに保護者の方々は魅せられていました。バレエクラブでも、バーを前にパッセやアラベスクなどを披露。軽やかな身のこなしに拍手が集まっていました。

科学の不思議を楽しみ実験で学ぶサイエンス&クラフトクラブ、跳び箱やボール、マットなど総合的な体育遊びを通して基礎運動能力を養うサーキットクラブでも、のびのびとした園児の様子が見られました。



合奏クラブ



サイエンス&クラフトクラブ



サーキットクラブ



バレエクラブ

さい じ こ ざく びん てん じ
2歳児クラスの子どもの作品も展示!!
制作展を開催

2歳児クラスの子どもの作品

12月10日、制作展が開催され、リズム室を中心に園内は2歳児から年長組までの園児たちの力作でいっぱいになりました。

年長組は秋の園外保育で訪れた東大寺の大仏を描き、個性豊かな作品が壁いっぱい貼られていました。また、2クラスが「大仏殿」「多聞天」「廣目天」の3つのチームに分かれ、木工制作に挑戦しました。幼稚園と同じ奈良の地にある大仏などを間近にとらえた感動を「設計図」に落とし込むところから作業は始まり、チームワークをもって完成にこぎつけました。作品は画用紙や新聞、廃材等がうまく組み合わせられており、創意工夫が随所に見られました。

木工制作では、年少組がクリスマスツリー、年中組が遠足で見たコスモス畑に挑戦。慣れないのこぎりや金槌での釘打ちに手こずりながらも拾い集めたどんぐりや葉っぱで飾りつけをして作った作品が部屋中に並んでいました。2歳児クラスもオリジナルのバッグやクリスマスツリーを制作。感性豊かな作品がたくさんあふれていました。このほか、壁面制作や陶芸、この秋に先生に読んでも園児たちの力作に見入る保護者らったお話をテーマにした色鮮やかな絵やカレンダーなど園児たちが懸命に取り組んださまざまなジャンルの作品が教室に飾られていました。

お家の人と来園した子どもたち。苦勞して作り上げた自分の作品を誇らしげに指し示す姿が会場内の至るところで見られました。

※今回展示された作品のうち4点について、本誌表紙に写真を掲載しています。



自分の作品を指し示す園児



家族みんなで作品を鑑賞しました

よいしょ、よいしょ。
みんなで
もちつきをしました

リズム室のどまんかに大きな臼が用意されて...

...していました。そこに運び込まれてきたのは湯気がもくもくとたちあがるもち米。あたりは炊きたてのお米のいい香りが漂っていました。「よいしょ、よいしょ」。準備が整えば、いよいよもちつきが始まります。先生の助けを借りながらひとりずつ一生懸命杵を振り下ろすと、おいしそうなおもちが徐々にできあがってきました。

育友会のご協力で食べやすい大きさに丸められたおもちちは年長組の園児たちが手分けをして近隣を訪問。日頃の感謝の気持ちを込めて近隣各所に振る舞われました。教室では、きな粉やあんこなどいろいろな味のおもちをみんなでおいしく味わいました。おかわりを求める園児も多く見られました。



一生懸命杵を下ろします



つくたてのおもちを守衛さんに渡します

幼稚園に
獅子舞がやってきた

1月25日、リズム室で天川村郷土芸能保存会洞川民芸会による獅子舞神楽が披露されました。幼稚園では初めての試みとなったこの催し。部屋の前方で民芸会ののぼりや獅子頭の設置など準備が進むと、リズム室はいつもと違った雰囲気になりました。

年長組、年中組、年少組そして2歳児クラスのみなが続々と部屋に集まりました。小林弘明育友会会長の挨拶に続き、いよいよ獅子舞の登場です。

「動物の王様といえば『ライオン』ですね」。民芸会の方から「獅子舞」について説明が始まりました。「獅子舞の『獅子』は、実はライオンのことなんだよ」と聞くのと、園児は一様に驚いていました。「獅子舞は全然こわくないので安心してね」とティッシュの空き箱で作られたかわいい獅子頭を園児に見せ、場を和ませていました。「これからみんなに見てもらおう。神楽は、鈴を鳴らして私たちの居場所を教え、神様を招き入れるものです」と地域の伝統文化について丁寧に話す場面もありました。

「それでは獅子舞が神楽を舞います」とのアナウンスを受け、太鼓や笛のお囃子にぎやかに奏でられました。園児たちの目の前に出てきたのは2頭の獅子舞。初めて本物を見たのか、びくびくした声やどこでどこで聞かれました。2頭は時に離れたり、時に頭を寄せたりと、お互いに息を

ぴったりと合わせて動き、園児ににゅつと顔を近づける場面もありました。右に左に、前に後ろにと、場全体を使った「静」と「動」のめりはりをきかせた勇壮な舞にみんなが見とれていました。

2頭による舞のあとは、太鼓を使った音遊びに挑戦。「そうそう、その調子!」子どもたちは太鼓に合わせてテンポよく手拍子をし、体全体でリズムをとっていました。

「さあ、これから獅子舞がみんなのところにいけますよ。獅子舞に頭をかんでもらうと無病息災、健康で長生きできると言われています。こわがらないでね」。民芸会の方の合図にあわせて、3頭の獅子舞が園児の近くにやってきました。「大丈夫、大丈夫」と優しく声をかけていただきました。一人ひとり頭をかんでもらいました。思わず泣きだしてしまふ場面もありましたが、かまれても平気な様子の他の友だちの姿を見て、かんでもらうよう自ら名乗り出る園児も多くみられました。

「今日は、朝早く起きて遠い遠い吉野の山奥からやってきました」と話された民芸会の方々。奈良県の意外な広さに園児は驚いた様子を見せていました。古くから伝わる日本文化を通じて豊かな心を養う教育取組として行われた今回の獅子舞神楽。伝統的な民俗芸能を直接に体験する貴重な機会となりました。



最後は自ら獅子頭に歩み寄っていった園児たち



ティッシュの空き箱でできた獅子頭で遊ぶ園児



一人ずつ頭をかんでもらいました



太鼓を使った音遊びの様子

令和6年2月14日 クラブ表彰を行いました

2月14日、全国大会に出場したクラブに対して表彰式を行いました。対象となった9クラブの生徒それぞれに帝塚山学園同窓会から賞状を手渡しました。

今回表彰されたクラブは次のとおり。
(生徒からのコメントもあわせて掲載しています)

高校数学研究部 代表生徒 辻本 穂波(2年J組)

・パソコン甲子園2023 プログラミング部門

今年度は2度全国大会へ出場することができ、全国の選手との競技や交流で競技にかける熱量を強く感じました。競技プログラミングは基本的に個人競技ですが、仲間と共に高め合い、来年度も良い成績を残せるよう精進し続けたいと思います。

中学卓球部 代表生徒 中村 奈都音(2年10組)

・第25回全国中学校選抜卓球大会

今年度は一人一人が長所をのばし、苦手なことを克服するために頑張った、そのおかげで全国大会に出場することができました。来年度も互いに支え合いながら練習に励み、総体でいい結果を出したいと思います。

高校放送部 代表生徒 池谷 朋華(2年H組)

・第70回NHK杯全国高校放送コンテスト

全国大会や他府県との合同練習で、自分の未熟さを改めて思い知らされた一年でした。たくさんの素晴らしい先生や、目標となる同年代の子とも出会えたので、今年はさらにステップアップして全国で結果を残したいです。

中学放送部 代表生徒 池嶋 佑真(2年1組)

・第40回NHK杯全国中学放送コンテスト

今年度、中学放送部はNHK杯全国中学校放送コンテストの奈良県予選をアナウンス、朗読、テレビ番組、ラジオ番組の全部門で突破することができました。惜しくも次の全国予選は突破できませんでしたが、他校の方の参考になる読みを聞くことができ、素晴らしい大会でした。来年度は全国決勝に進めるようがんばります!

中学英語部 星野 みずき(3年9組)

・高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会

本年度の活動では、いい意味で周りとの「差」を感じることができました。自分にはない相手の良いところや、逆に相手にはない自分のいいところに気づく機会が多くあり、そのひとつひとつの気づきが私を成長させてくれたように感じます。

高校ダンス部 代表生徒 山本 美月(2年I組)

・第35回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

昨年の大会では、残念ながら決勝に進むことはできませんでしたが、次年度は私の6年間のダンス部人生に幕を閉じる最後の大会になります。部活動にも勉強にも、仲間と共に精進してまいります。

高校理科部ロボット班 代表生徒 野間 怜生(3年C組)

・WRO国際大会(デンマーク、パナマ)

私は本年度の活動をふりかえって海外での活動の楽しさと難しさを知ることになりました。大会で私は様々な海外の人と話し多くの文化を知ることができ、悔しいこともありました。この経験は私の貴重な財産になったと思います。ありがとうございました。

高校テニス部 岡田 凜(2年E組)

・令和5年度全国高等学校総合体育大会テニス競技大会

本年度はあまりいい結果が出ず、悔しい思いをすることがたくさんありました。次大会の全国選抜で毎日必死に練習してきた成果を出し切り、私に全国というきっかけをくださった帝塚山高校やサポートしてくださる方々のために私のテニスの集大成を見せられるよう、勝ちをもぎ取りにいきます!

弦楽部 代表生徒 松宮 永華(2年J組)

・第12回日本学校合奏コンクール2023 全国大会グランドコンテスト

コロナ禍が終わり、思い切り部活動に取り組めるようになり、今年は昨年届かなかった全国大会の舞台上で演奏することができました。大人数で1つの音楽を作り上げることは貴重な経験です。来年度も多くの方々に私たちの音楽を届けられるよう励みます。



受賞した生徒たち(左から、高校ダンス部・山本美月さん、高校テニス部・岡田凜さん、高校放送部・池谷朋華さん、高校数学研究部・辻本穂波さん、中学卓球部・中村奈都音さん、弦楽部・松宮永華さん、中学放送部・池嶋佑真さん、高校理科部ロボット班・野間怜生さん、中学英語部・星野みずきさん)

中高図書室へ計27冊の図書を寄贈

このほど、中高同窓会は、中高図書室へ「読書好きの生徒たちのために」と27冊の図書を寄贈いたしました。

図書の寄贈は、平成24年度から継続事業として実施しており、今回も、中高の図書室部長の先生、図書司書の方々に利用頻度の高い本や人気シリーズの新刊や話題の本を選んでいただきました。

本年は「勉強が面白くなる瞬間」、「未来のきみを変える読書術 なぜ本を読むのか」「『ヤングケアラー』深層へのアプローチSNSで出会う、つながり続ける」など、27冊を寄贈いたしました。

ネットなどから情報、知識を得る時代ですが、じっくりページをめくり、行間にある背景まで読む力を養っていただければ、と願っております。

同図書室の入り口正面に特設コーナーを設けていただき、一時展示してもらっております。



各期同期会、クラブOB・OG会

2023年10月以降、次の同期会、クラブOB・OG会が開催されました。

10月14日 19期生
10月22日 20期生
11月11日 23期生
11月19日 16期生
11月23日 ソフトボール部OG会
12月 2日 51期生
12月27日 74期生
2024年
1月 8日 76期生



「第57回わかみどり会」懇親会のお知らせ

「やまとは国のまほろば」

「奈良はすばらしいところ」という意味があります。

学生時代に学んだ奈良におもむくことで新しい何かを見つけてみるのはいかがでしょう。

今年度は初夏に、「わかみどり会」懇親会を開催します。

日時：2024年6月29日(土) 12:00受付開始
12:30～14:30の予定

会場：JWマリオット・ホテル奈良

会費：会員・現職教員：9,000円

新卒(令和5年度卒業生)：2,000円

退職教員(特別会員)：ご招待

非会員(同伴者・中学生以上)：13,000円

小学生以下(キッズプレートを用意します)：4,500円

※会員は同窓会より4,000円助成いたします。

※会費は前払いとなっています。

【参加申込締切】2024年6月17日(月)必着



※写真はJWマリオット・ホテル奈良ホームページより転載



詳しくは
QRコードを
ご確認ください



懇親会申込フォーム

令和6年1月8日
はたちを祝う会を開催しました

同窓会主催による

76期生の「はたちを祝う会」が行

われ、会場となった

学園講堂に263名

が集いました。新

型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行された

こともあり、今回は家族1名の参加が可能となり130

名の家族が見守る中での開催となりました。



玉井政弘同窓会長



富岡将人理事長・学園長



小林健中学校長



式では玉井政弘同窓会長、富岡将人理事長・学園長、小林健校長からの祝辞に続き、76期生を代表し、溜谷優太さん、本多彩夏さんが登壇し、力強い誓いの言葉を述べた後、帝塚山学園の歌、祝歌「茜雲」の斉唱で閉会しました。

その後、76期生たちはホテルに会場を移し、旧交を温めました。

INFORMATION 03

学園前キャンパスリニューアル工事終了

学園前キャンパス16号館を中心に、2022年2月に始まったリニューアル工事が2024年3月に終了しました。

まず、2022年2月から3月にかけて、同キャンパス5号館では主に大学現代生活学部居住空間デザイン学科の学生が使用する「デザインラボ」を新設、同14号館では教室の机や椅子を可動式のものに変更する工事を行いました。2022年4月からは、今回のリニューアルのメインとなる同16号館の工事を開始。9階建てのフロアごとに空調設備(エアコン・換気設備)の更新、照明設備のLED化を行いました。また、外壁改修、屋上・各階バルコニーの改修、エレベータ乗り場前の防煙改修を実施し、2024年3月に全工程が終了しました。

今後も「安全・安心」「快適」「エコ」キャンパスの整備を目指してまいります。



16号館はほぼシートで覆われています(2022年9月撮影)



防護シートが一部はがされました(2023年12月撮影)



はとの広場のタイル補修が進んでいます(2024年1月撮影)

皆様からのご寄付をお願いいたします

保護者の皆様、卒業生の皆様をはじめ、関係各位におかれましては、平素より帝塚山学園の教育研究活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

帝塚山学園は昭和16年の創立以来、建学の精神、教育の根本理念に基づき、2歳児教育・幼稚園から大学・大学院まで、それぞれの発達段階に即し、「人間性を養う」、「よい人間をつくる」、「よい人柄をつくる」、「よい品性を培う」帝塚山教育のもとで各学園が特色ある教育を展開し、「社会に有為な人材」の育成に邁進してまいりました。

皆様におかれましては、日頃から多大なご協力を賜っているところではありますが、学園各学校の教育研究活動へ一層のご理解をいただき、格別のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

※本学へのご寄付は、税制上の優遇措置を受けることができます。

ご寄付に関しては、専用サイトを開設する予定です。帝塚山学園ホームページをご覧くださいませようお願いいたします。

INFORMATION 01

幼稚園・小学校の歴史と思い出を振り返ろう！ 「帝塚山幼稚園・帝塚山小学校 創立70周年特別展示」開催中



本誌第16号では、巻頭で「帝塚山幼稚園・帝塚山小学校創立70周年」を特集。小学校及び幼稚園の歴史を振り返るとともに、卒業(園)生にご登場いただき、学校園の現在・過去・未来を存分に語っていただきました。この特集と連動して、2024年1月から「帝塚山幼稚園・帝塚山小学校創立70周年特別展示」を学園前キャンパス16号館2階展示コーナーにて開催しています。

展示コーナーの壁面には、小学校及び幼稚園の70余年にわたる歴史をパネルで展示。本誌に掲載した内容から、さらに充実させたものを制作し、当時の写真とともに年表形式でたど

るようになっています。また、展示ケースでは、小学校及び幼稚園が保存している貴重な資料を特別に公開。文集・作品集(小学校「まつぼっくり」、幼稚園「かがやき」)、歌集、日誌、学級だよりなど小学校及び幼稚園の教育活動の記録を見ることが出来ます。また、授業研究資料集やおしぼいの脚本といった教材など、当時の教育内容・方法をうかがい知ることのできる資料も多数展示しています。昭和時代の入園案内やパンフレットなどもあり、当時の写真やイラストが懐かしい思い出をよみがえらせます。



小学校の旧校舎校門に設置されていた「表札」



年表パネル。懐かしい写真とともに歴史をたどることができます



展示コーナーに足を止める中高生たち

INFORMATION 02

帝塚山大学は2024年度に開学60周年を迎えます

帝塚山大学は1964(昭和39)年に教養学部教養学科のみを有する女子単科大学として開学し、1987(昭和62)年の経済学部経済学科設置に伴い共学化しました。

2000(平成12)年に短期大学を組み入れて総合大学となった後も着実に歩みを進め、現在は6学部7学科2研究科を擁する奈良県最大規模の文系総合大学として、およそ3,000名の学生(2023年5月現在)が東生駒と学園前の両キャンパスで学びを深めています。

開学60周年を迎えるにあたって、今後、記念事業や式典行事、募金、各種イベント等が実施される予定です。詳しくは、帝塚山大学開学60周年記念サイト(近日開設予定)において広くお知らせしてまいります。



学生の応募作品から選ばれた「グランプリ」作品をもとにした開学60周年シンボルマークデザインが正式に決定



未来の管理栄養士によるレシピ紹介

今日のおやつ

ほうじ茶のマドレーヌ

【材料(10個)】

薄力粉……………100g
ベーキングパウダー…3g
鶏卵……………18g
砂糖……………60g
有塩バター…………70g
ほうじ茶抽出液…………80g
(ティーバッグ1個)
ゆず果汁……………5g
(レモン汁でもよい)
ほうじ茶(粉)……………2g
ほうじ茶(茶葉)………少々
マドレーヌ型

【準備】

- ・オーブンを200℃で予熱する。
- ・湯を沸かし、熱湯200gにほうじ茶ティーバッグを入れて濃く煮出す。抽出液80gを取り、冷ましておく。
- ・バターは湯煎し溶かしておく。
- ・砂糖をふるっておく。薄力粉とベーキングパウダーは合わせて、ふるっておく。

【作り方】

- ① ボウルに卵を割り入れ、砂糖を加えて、泡立て器で白くなるまで混ぜる。
- ② ①に粉類を入れてゴムベラで混ぜ、溶かしバターを加えて再度混ぜる。
- ③ ②にほうじ茶の抽出液とゆず果汁、ほうじ茶(粉)を入れ滑らかになるまで混ぜる。
- ④ ③を型に流し込み、上からほうじ茶(茶葉)を振りかける。
- ⑤ オーブンに入れ200℃で11分焼く。



1個当たりのエネルギー
110kcal

■調理のポイント

- ・ほうじ茶は煮出してできるだけ濃く抽出します。
- ・ほうじ茶(粉)は市販がなければ、ティーバッグの茶葉をミルサーやフードカッターにかけると風味が断然よくなります。

■ほうじ茶の栄養価について

香ばしい香りでリラックス効果あり、カフェインレスで飲みやすいほうじ茶。緑茶と同じポリフェノールが含まれています。



このメニューは、2023年11月15日の給食経営管理実習*で作ったメニューの1つです。作った給食は、学生、教職員で試食し、アンケート調査を実施。実習後にアンケート結果をまとめたパネルを制作し、今後の実習に活かしています。
*給食経営管理実習は、大学現代生活学部食物栄養学科(管理栄養士養成課程)の実習の1つで、衛生管理が徹底された設備環境で管理栄養士、栄養士、調理師、調理員の役割を実践し、給食の流れを理解する実習です。





「T-time」(第17号) 表紙

秋から冬、春にかけて、学園各学校で研究展や制作展などが開催されました。
ごく一部の作品となりますが学園の「誌上作品展」としてご紹介します。
各学校の園児・児童・生徒・学生たちの力作を鑑賞していただければと思います。

- Ⓐ 「connect sea 海と人をアートでつなぐ自然体験学習施設の提案」
大門 楓花 (大学 現代生活学部居住空間デザイン学科 4年)
- Ⓑ 「折り重なる喜色-明治神宮ボールパークの設計提案-」
佐藤 花梨 (大学 現代生活学部居住空間デザイン学科 4年)
- Ⓒ 「奈良県の伝統工芸品」 藤本 由季乃 (大学 現代生活学部居住空間デザイン学科 4年)
- Ⓓ 「言の葉」 (外国人留学生向けレジデンスを併設した複合型文化交流施設の設計)
小中 瑠美、野中 初心、林 美月、船越 友愛 (大学 現代生活学部居住空間デザイン学科 3年)
- Ⓔ 「アートで潤う触れ合い」 (RC集合住宅設計)
上村 日菜 (大学 現代生活学部居住空間デザイン学科 2年)
- Ⓕ 「雪月風花」 (木造戸建住宅の設計)
飯田 愛莉 (大学 現代生活学部居住空間デザイン学科 1年)
- Ⓖ 「光」 (大学 教育学部こども教育学科 4年) ※学年作品
- Ⓗ 「笑」 (大学 教育学部こども教育学科 1年) ※学年作品
- Ⓘ 課題「写真をつくる」 寺嶋 和花 (高等学校 2年E組)
- ⓷ 課題「水彩画」 塩倉 梨恵奈 (高等学校 1年J組)
- Ⓚ 課題「絵本」 富山 凜子 (中学校 3年8組)
- Ⓛ 課題「デザイン・ポスター」 加藤 理奈 (中学校 2年9組)
- Ⓜ 課題「風景デザイン」 石川 文虹 (中学校 1年9組)
- Ⓝ 「歳在癸丑」 大杉 葵羽 (高等学校 2年E組)
- ⓪ 「笑門来福」 森居 千晴 (中学校 1年10組)
- Ⓟ 「おめん」<陶芸> (小学校 6年)
- Ⓢ 「風景」<油絵> (小学校 5年)
- Ⓡ 「花のデザイン」 (小学校 4年)
- Ⓣ 「まるごとじがぞう」 (小学校 3年)
- Ⓡ 「花」 (小学校 2年)
- Ⓤ 「ちょう」 (小学校 1年)
- Ⓥ 「House」 (小学校 全学年)
- Ⓦ 「なつのそらのはなし」 菅田 惺香 (幼稚園 たんぽぽ組)
- Ⓧ 「のうさぎのみーとぴぴ」 佐瀬 みずき (幼稚園 すみれ組)
- Ⓨ 「どんぐりとはっぴ」 山下 凜 (幼稚園 もも組)
- Ⓩ 「にじみ絵」 赤松 環 (2歳児教育 りす組)



「T-time」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。

